

岐阜県関市 公立保育園

各園が連携した 「森と自然を活用した保育」



岐阜県



岐阜県



関市



関市



古式日本刀鍛錬

小瀬鵜飼



モネの池・株杉

岐阜県関市
人口88,106人
(令和2年2月1日)

活動のきっかけ



0～5歳児人口: 3,754人
平成31年4月1日現在
幼稚園児: 881人 (7園)
保育園児: 1,879人
うち、公立: 630人 (10園)
私立: 1,249人 (9園)

- ★平成30年度に子育て支援施策として、『特色ある保育』に対する事業費を予算化。
- ★公立保育園は、同じ保育方針で保育を行っていることから、10園で統一した事業を行うこととした。
 - ・自然体験活動(園外保育)
 - ・リズムあそび

具体的な取組



平成30年と31年に鳥取県智頭町のまるたんぼうへチーム森メンバーが、視察に行き衝撃を受ける。

子どもへの禁止ワード 『危ない・汚い・ダメ・早く』

- ①子どもたちがやりたいことをやりきる見守り保育が徹底されている。
- ②子どもたちがあそび込めるフィールドがある。
- ③職員の自然と関わる中での知識とリスクに対するスキルが高い。

まるたんぼう視察後、冊子を作り
見守り保育について、
10園の職員に説明をし、
思いを共有できるように
しました。
関市でもできることから
取り組んでいます。



10園が同じ思いで保育するために！ チーム森活動

《問題点》

- ・職員の異動が毎年あり、同じ思いで保育するのに時間がかかる。
- ・何十年も前から散歩を通して自然体験はしていたものの、大人主導の散歩になっていて子どもたちの主体性のない散歩で本当にいいのだろうか？

チーム森とは？

森活動をやってみたい保育士13人と子ども家庭課1人の集団です。
自分たちが、体験して学んだこと、研修や講演会に行ったことをチーム森のメンバー
で共有し、それを自園に持ち帰りみんなに発信しています。そして実践したことをまた森会議
で報告しあい、自分たちが主となり自然の中でのあそびが深まるようにしています。

① 散歩フィールドを整える。

- ・地域の方にあそべるフィールド
や危険箇所などを、教えていた
だいたり、土地を借りたり、草刈
りなど協力していただいている。
- ・お散歩マップを作り各園の散歩
フィールドをわかりやすくする。
- ・草刈り研修を年に2回、メンテナ
ンスも含め行い、自分たちでも
整えていく。



関市立公立保育園のフィールドマップ



② 樹木医 水崎貴久彦先生に、植物や生き物について学ぶ。

水崎先生と、10園の保育士が各園の散歩フィールドを回り、危険な植物や生き物、食べられる植物、あそべる植物について学んでいます。





ほこりだけってふしげ！！



③森林文化アカデミーの萩原・ナバ・裕作先生に、園のフィールドでのあそび方を学ぶ。

1回目 洞戸保育園

6月11日

《ねらい》

子どもの体幹を鍛える

※ロープあそびの提案



へくそかずらは、くっさ~い！



シダでキャッチボール



すいばは、すっぱ~い！



丸太引き



モンキーロープ



ジップライン



ブランコ



ハンモック



杉の木のクッションベンチ



トイレ



川渡り



石積み

2回目 田原保育園 11月12日

《ねらい》 そこにあるもので工夫してあそぶ。

粘土質の土で団子を作りあそぶ



焚火でいろいろなものを
焼いてみたら不思議！！



闇市といえば刃物！！
morinocoナイフの使い方を
教えていただきました。



地域の方が足場を作り、
つるでターザンあそびが
しやすくなりました。



長靴がどこかにいっちゃった～



あったかいね～



秘密基地の中で



パンダに変身



森を探検



この虫の名は？



石投げ

空っぽ弁当の日

給食をお弁当箱に詰めて
一日中散歩フィールドで
あそびます。



ベンチ作りに夢中



つづく

その日の振り返り

今日の学びを共有したり、
疑問に思ったことや、これ
からやってみたいことなど
話し合います。



④森林文化アカデミーの川尻秀樹先生と萩原・ナバ・裕作先生から リスクについて学ぶ。



危険なものをすべて取り除くのではなく、どうしたら安全にあそべるのかを子どもたちと一緒に考えていくことが
リスクを軽減していくことにつながることを学びました。



地域の方からオオスズメバチの巣があるから11月頃まで山に行かないほうがいいと教えていただきました。

危なくないように、自分たちで身を守ろう！！

散歩の帰り道にスズメバチを発見



低くして(自分たちで考える)



散歩先で
マムシを
発見！！
保育園の
みんなに
お知らせ
です。



環境を考える



どうしたらゴミが無くなるのか話し合い
看板を立てることにしました。



研修に参加することで

- ① いろいろな知識が学べる。
- ② 他園の保育士との交流の場になる。
- ③ 異動してもすぐ知っているフィールドがある。



チーム森の主な活動

①各園の情報交換

- ・散歩フィールドでの遊びの写真や各園で話したエピソードを会議に持ち寄って共有。
- ・掲示や散歩での遊びの発信方法などを情報交換して自園に持ち帰る。



10園の質が高まるように！！



②保護者への発信



5月の保育参観日で親子と一緒にフィールドであそぶ。日頃の子どもたちの様子を見たり、自然物でのあそびの楽しさを共感していただく。



送迎時にお散歩マップや掲示を見ながら、子どもたちのあそぶ姿、植物、生き物について伝えています。



③他園との交流

自園には無い山や川など、他園のフィールドに出かけ、子どもたちが交流しながら自然体験を楽しんでいます。



おさんぽ会
未就園児の親子を招待して同じ年齢の未満児と一緒に散歩に出かけています。



関市公立保育士50人が 「森のようちえん全国交流フォーラムinぎふ」に参加

- ・森のようちえんに関わってみえる全国の皆さんへの熱く・温かく・力強く・やさしいパワーをもらいました。
- ・森のようちえんの活動が、子どもたちだけでなく、大人にとっても心地よい空間であることが素敵だった。
- ・『みんなちがって みんないい』は心に残るテーマで、子ども中心にを常に考えたい。



フォーラムに参加したことで
↓
チーム森以外の保育士たちの
意識も変わる

- ・子どもを真ん中に置いた保育の大切さに
気が付く
- ・自分の保育を振り返るきっかけ
- ・自然と触れ合う心地よさ

『子どもたちが自然の中で五感を感じ
自分のやりたいことをやりきる子に！』



行政の役割



保育園の

やりたいことができるよう…

思いをかなえられるよう…

質を高められるよう…

環境づくりの橋渡し

例えば

- ・岐阜県庁に照会
- ・森林文化アカデミーとの交渉
- ・研修参加手配
- ・保育の参考になる講演会への参加申込
- ・消耗品・備品購入



農林課とのつながり

子ども家庭課だけでは
解決できないことを相談



心強い味方



いろいろな調整をするうちに

- ・研修に参加する保育士が増えた
→課題を解決するために動き始める
- ・人脈が広がった
→困ったときに相談できる
- ・関市とかかわりを持った方がFBで情報発信
→シェアされることで情報が全国に届く



現在の森林施策は、木の伐採をしたり、
伐採した木で新しいものを作り出したりする
ことが多い。

子どもたちがあそぶための森という視点
が今までにないため、関市の公立保育園の
取組はあそぶ森をデザインするというモデル
になるのでは。

(森林文化アカデミー)



今あるものを活かし、
それを使ってどうやってあそぶか
ということが大切。



今後は



現在の活動を続けつつ、
さらにいろいろな機関と連携し、
保育の質を高める。



子ども主体の 見守る保育の推進